

松本清張記念館

◆館報◆

2015.3
第48号

貧乏人は、

裁判にも絶望しなければならぬことが

よく分かりましたわ。



『霧の旗』昭和36(1961)年
中央公論社

現在入手できる本
『霧の旗』新潮文庫
『松本清張全集』第19巻 文藝春秋

『霧の旗』は、昭和34(1959)年7月から35(1960)年3月まで「婦人公論」に連載された。

目次

- 松本清張研究会 第31回研究発表会…………… 2
- 特別企画展
「眩人——松本清張と東西文化交流」…………… 5
- 展示品紹介…………… 6
- 点描 作品の舞台を訪ねて…………… 6
- 研究誌『松本清張研究』第十六号発刊…………… 7
- 友の会活動報告…………… 7
- トピックス…………… 8

作品紹介

兄の無罪を信じる柳田桐子は、敏腕弁護士として有名な大塚欽三に弁護を依頼するために上京した。

かつては正義感で弁護を引き

受け、数々の冤罪を救ったこともある大塚弁護士だったが、地位と名声を手に入れた現在は、愛人とのゴルフの予定に気を取られ、桐子の訪問にも冷淡だった。

やがて、兄が有罪判決のまま獄死したことを知らせる葉書が、桐子から届く。

大塚弁護士は、本来の正義感と職業的自負から、桐子の兄が犯人となった、九州のK市で起こった強盗殺人について調べ始める。そして、真犯人が別にいることを確信する。

桐子は故郷を離れ、同郷が集まる東京のバー「海草」で働き始めていた。ある時、マダムの弟・杉浦健次が殺害された現場から、大塚弁護士の愛人・河野径子が立ち去る瞬間に出くわす。径子は恐怖のあまり「あとで疑いのかかったときに、あなたが証人になって」と懇願し、桐子に約束を取り付けるが――

まっすぐな、少女の全存在をかけた復讐に、戸惑い・圧倒される作品。

(専門学芸員 柳原 暁子)

松本清張研究会 第31回 研究発表会

平成26年12月6日(土)午後2時 日本女子大学

本来、私は平安時代の和歌、歌壇が専門で

した。最近、清張研究会のポスターを見たある方が、私の顔をしげしげと見つめまして、「先生は昔は平安の和歌をやっていたんで、その後、万葉をやり、そして、今度は大麻を……」(笑)お分かりですか。最近は大麻をやっているんですね。(笑)で、私は「うん、最近は大麻なんだよ」と答えたら、「いいかがですか?」と聞かれ、どう答えていいものが詰まってしまった。(笑)これからの話も、私が《大麻をやった》その結果の幻想的な話ということになります。

清張は日本古代を動かした裏面の力として、ペルシアのゾロアスター教の渡来を確信し、『清張通史』『火の路』『眩人』は「世界から日本を見る」清張史観から書かれた。最古級のゾロアスター教渡来の影を、一つは「鳥葬」に見て、一つは「大麻」に見ていた。私の話は、清張古代史の根底に潜んでいるものを引っ張り出して、お見せすることになると思

鳥葬

日本古代に鳥葬を求めた清張の着眼点は鋭い。それで、私はその継承を試みました。

鳥葬とは、死骸を鳥に食べさせて処分する葬儀方法です。ゾロアスター教からチベット仏教へ。そして、驚くべきことに現在もチベットでは行われています。

まずは、『清張鳥葬説』ですが、なぜ清張は鳥葬に着目したのか。飛鳥時代にゾロアスター教渡来を証明するために、教徒が行っていた鳥葬の痕跡を日本に求めたのです。では、清張は鳥葬の痕跡を発見したのか。あつたんです。『古事記』『日本書紀』にある天若日子の神話です。天若日子の葬儀に多くの鳥が奉仕している。

「川雁を以て持傾頭者とし、亦帚持者とす。鷓鴣を以て尸者とし、雀を以て春(確)女とす。鷓鴣を以て哭女とし、鴉を以て造締者とす。鳥を以て穴人者とす。すべて衆の鳥を以て事に任ず」(『日本書紀』)

これだけの鳥が集まって葬儀を行ったのです。どうですかね。「あつ、鳥葬だ」と思うのは、自然ではありませんか。

アメワカヒコ神話は『古事記』の中でも一種のミステリーに属します。非常に面白いです。まず、「冷戦」です。高天原国最後の敵対国が出雲国であった。それで、「和平工作」としてアメワカヒコを大使として敵国出雲に派遣します。ところが、出雲大使は出雲国王の娘に籠絡されて、和平工作どころではな

く「祖国に反逆」した。この辺りから段々と、清張の小説に近づいていきます。そこで、高天原から、「女課報員」天探女が派遣される。アメワカヒコ、サグメを射殺。矢はサグメを貫いて高天原に達した。次に「狙撃」です。高天原側はアメワカヒコを狙い、矢を投げ反した。新嘗の行事が終わり、胡牀に臥しているアメワカヒコに当たり死亡した。そして、「葬儀」です。喪屋に集まった多くの鳥たち。その中に、「哭女」が登場している。これは単に亡骸を放っておいたのではなく、挙哀・発哀と



には非常にきれいな白鳥一羽が飛んでいくんですね。それに対して、アメワカヒコはどうでした? 雀がいる、鳥がいる、鶯がいると、たくさんいる。もし靈魂だとしますと、アメワカヒコはいったい俺の靈魂はどれだろうと困っちゃいますよね。(笑)やはり清張が言うとおり、鳥葬と考えるのが正しいと思います。

いう古代の葬送儀礼を行ったということですから、出雲大使は「生きていた」。弔問者の中に暗殺されたアメワカヒコとそっくりの男がいた。男は自分は別人だと怒り、喪屋を蹴飛ばし「葬式破壊」した。そして、「深まる謎」。妻までも男を夫と間違える? ことがあるか。別人なのか、あるいは同一人なのか……題して、神話版「球形の荒野」。

しかし、「アメワカヒコ鳥葬説」は少数意見です。それを唱えたのは、室町時代の神道に属する研究者二名だけだった。誰もそれを引き継がなかった。多数意見は清張説を認めず、アメワカヒコの靈魂が鳥に化したと説明するのです。ヤマトタケルという英雄が、死んで白鳥になったという説話が残っていますよね。同じ解釈なのです。

私は多数意見には疑問を持っています。ヤマトタケルとアメワカヒコは事情が全く別である。なぜなれば、ヤマトタケルの場合

いう証拠がないからなのです。これは確からしい。だから、現実には鳥葬はなかった。これも正しい。この矛盾をどう解いていくかという謎解きが始まっていきます。

アメワカヒコ神話はよく読むと、異常な神話です。メソポタミア神話、遊牧民叙事詩などの話型である「反し矢」が出てきている。天上に行った矢が投げ返されて、矢を放った本人が死んでしまう。もう一つ、矢が落ちてきて死んだときに、アメワカヒコが横たわっていた胡牀です。「胡」は西の方でしょ。胡牀とは西方の家具、クリネ、長椅子なんです。これらを合わせてみますと、この話が西方から伝わってきた話だと分かるんです。さらに、アメワカヒコは農耕が終了した新嘗のときに死んでいる。西の方の伝説に、穀物神が夏秋の到来で消え去る神話がある。農耕が終る頃に死ぬという話です。また、アメワカヒコそっくりの友人が出現した。友人はア

講演

清張古代史学からのスタート

——鳥葬と大麻——

講師 山口 博

○富山大学
聖徳大学
名誉教授



ジスキタカヒコネという神様で、「スキ」という言葉が入っているので農業神だろうと言われている。そうすると、西方には穀物神が夏秋には枯れて、翌春に蘇るといふ神話がある。アメワカヒコの話において、その蘇りの話の代わりに出てきたのが、そっくりさんの登場です。アメワカヒコの亡骸は、喪屋を蹴飛ばされ四散してしまつた。西方の神話の若者の亡骸も散骨されるのです。

こう見てくると、メソポタミアの若き穀物神であるタンムズ（シリアやギリシアではアドニスという名前で登場する神様）、あるいは、ソグド、イランの北東ウズベキスタンの若き穀物神、シャウーシユが採り入れが済むと死んで、翌年の春、蘇るといふタイプと、全く同じタイプの神話だと分つてきますね。

シャウーシユ伝説は、八世紀ソグド人の壁画に残っています。ソグド人は中国・日本にも渡来していた国際貿易商人です。中国人や高句麗人がソグドを訪問している。つまり、古代に非常に活躍した民族の話にこれが出てくる。さらにこの伝説は、隋の時代の『西蕃紀』にも書かれていて、中国までは確実に来ている。そして、いろんな方法で日本に渡つてきて、アメワカヒコの神話に変貌して伝わってきた。ソグドの石刻画像などを見ますと、鳥葬が行われたことは間違いない。とすると、このシャウーシユ伝説とともに鳥



ソグド壁画

葬が東へ東へ渡つてきて日本に来た。その名残が『古事記』に残っていた、と考えていると思います。そうしますと、『古事記』の神話をもつてきて鳥葬があつたという清張の指摘は間違つていなかったんです。

ただ、私は清張とは違つて、鳥葬が古代日本にあったとは言つていません。『古事記』にだけこれが留められ、清張はそれを指摘した。私はそれを手がかりにして、非常に大きな結論に達したんです。つまり、『記紀』の神話の中に、西方の伝説、神話が姿を変えて入っていることを証明したわけなんです。

大麻

古代史の中に大麻を問うという、誰もが考えても見なかった新視点を清張は構築した。これは素晴らしいですね。ではなぜ大麻が必要なのか。清張は、飛鳥奈良時代を大きく動かした闇の力に、麻薬を確信した。麻薬をキーとして二つの時代の謎に挑戦した。単に小説の世界だけではなく、一つの史観として捉えていたから、小説『火の路』『眩人』と歴史書『清張通史6 寧楽』を公にしたのです。

『火の路』の全体の構造は交錯する二つのミステリーからできている。一つは現代のミステリー、一つは古代のミステリー。清張は古代のミステリーの謎を解く方に重きを置いていた。では、そのミステリーは何であつたか。斉明女帝は「狂心の渠」から深い堀を造つた。そして巨石で石垣を造り、石の山丘を築いた。そして、亀石だとか、猿石とか、たぐさんの石造物を造つた。天宮という楼を建設した。崩御のとき、近くの山の上に大きな笠を被つた鬼がいて、葬儀の様子を眺めていた。「衆皆嗟怪ぶ」という奇妙な天皇だつたんです。では、その謎を解くためにどんな手法をとつたか。挿入された論文形式です。一つは、高須通子さんの論文。二つ

の論文合わせて、新聞掲載（全477回）で80回分です。もう一つは、海津信六という在野の学者の手紙3本。つまり、これを合計したものが実は松本清張自身の論文なんです。

次にその論文の結論です。飛鳥の都にゾロアスター教（中国では祇教）の司祭者が渡来した。斉明女帝はゾロアスター教に魅せられ、ハツシーシユ系統

の麻薬を愛用、イランに多い石造文化を導入し、拜火壇（益田岩船）、石造物（猿石、亀石など）、そして麻薬製造器として酒船石などを造つたのか、と高須論文を通じて清張は主張しました。

そして、全体を通じてのキーが麻薬なんです。二つ出てきます。一つは大麻、マリファナ。もう一つがハオマです。小説の始めに大麻に関する話が二つ置かれています。ところが、途中から唐突に麻薬ハオマが登場して、ややこしくなるんです。

「幻人が使う葉草がハオマだ」という記述にも彼女は惹かれた。もちろんこれは中枢神経を麻痺させて幻覚を起こすインド大麻のことである」と、『火の路』『西教の火』に書いてあります。これで、私の頭も麻痺してしまひましてねえ。インド大麻はマリファナでしよ、ハオマは全然違うものなのに、どうして同じものだと清張は述べたのか。清張の理解するハオマは、紀元前からの麻薬植物、これはいいですね。ザクロの一種のハオマという樹からハオマ酒を造り、ゾロアスター教儀式に用いる。効能はアヘンと同じように中枢神経を興奮させると、『火の回路』の「創作ノート」に清張自身が書いています。すると、清張はなぜハオマを持ち出した



酒船石

のか。理由の一つは、日本の麻には幻覚性がないということ。もう一つは、大麻、マリファナは、別段お酒にする必要はないんです。ところが、清張の頭にはアスカの酒船石があつて、その中に材料を入れてこねて、麻薬のお酒を造つたに違いないと考えた。しかし、大麻はお酒にしないでいいから、別なものを持つてこなくて

ならない。そこで、考えついたのがハオマ酒だつたんです。『眩人』は、壮大な歴史小説です。奈良時代最盛期の天平時代から奈良時代末期に至る半世紀の歴史が展開されております。

まず後宮の女たちが登場いたします。聖武天皇を囲む二人の女性、母藤原宮子と皇后光明子。宮子は首皇子（聖武）を出産後、心的障害を引きおこした。宮子の妹光明皇后は聖武天皇を実質的に動かす存在であつた。主人公の玄昉は渡唐僧だが、長安に在る間に、本来の仏教徒としての修行よりも則天武后の治政などをかなり勉強してきたらしい。それを生かして、麻薬で皇后などを籠絡し、聖武天皇にも薬を吞ませノイローゼにし、栄光を掴むが、一転して破滅した男の物語です。長安のゾロアスター教祠で液体を飲み、幻想的体験をした玄昉は、幻術に長け麻薬の知識を持つソグド人の弟子を伴つて、日本に帰国します。この弟子が大麻を持ち込んだわけ。持参した大麻は使うと当然、少なくなる。それで、日本の国内に大麻がないかと探し始めた。アスカに、麻が生えていた。しかし、麻薬の成分が弱い。幻覚性が起きない。また、アスカで先人渡来者の造つた船形の石造物

特別企画展

眩

げんじん

人

松本清張と東西文化交流

開催期間 平成27年1月10日(土)~5月31日(日)

場所 松本清張記念館地階 企画展示室

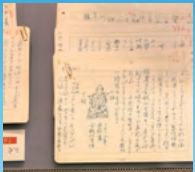
入場料 一般 500円 中高生 300円
小学生 200円 ※常設展示観覧料を含む

好評につき
期間延長



平山郁夫《眩人・挿画》原画展

「眩人」の挿画は、平山郁夫画伯が描くことに決まっていた。自らデザイナーであり美術に造詣の深い清張は、シルクロードなど東西文化交流には共通の関心をよせる平山画伯の挿画が、自作を飾ることに喜びを感じ、特別な想い入れをもって「眩人」連載前に平山画伯と対談をしている。



清張直筆の「古代史カード」



直筆原稿「古代史私注」



清張直筆の「研究ノート」



清張コレクション

松本清張は「火の路」執筆中に、＜偶然の機縁＞で骨董屋からガンダーラムを数個手に入れた。＜インド仏教と西方宗教である太陽(ミトラ)信仰との混血＞で、ガンダーラムにはその混血が＜具体的に＞見られて＜興味深い＞と感じ購入したようである。



ようこそ!

唐都長安と天平の奈良を背景に、大規模な歴史と、留学僧玄奘や光明皇后などの人物群像を、壮大なスケールで描く歴史小説『眩人』の世界へ。



松本清張フィルムグラフィ

第一展示室の右奥は《松本清張フィルムグラフィ》のコーナーで、映画パンフレットやシナリオなどを展示している。清張の映画化作品は、生誕百年にリメイクされた『ゼロの焦点』をふくめて三十六本。壁のモニターでそのうち十八本のダイジェスト映像を常時上映している。白黒のタイトル（山藤章二）が画面に浮かび出ると、その一画は《清張映画》館に様変わりする。

——「さあ、張込みだ！」大写しの刑事（大木実）の両目にかぶせて『張込み』。〈克明な人間描写とみごとなサスペンスの名作。愛する幼馴染を失ったホシはついに現れた。犯人を目前にした刑事の息詰まる緊張感〉

普通の主婦を演じる高峰秀子が清楚で美しい。橋本忍脚本の野村芳太郎監督作品で、『キネマ旬報』八位、清張もベストスター（ほかは、『砂の器』と『証言』に挙げている。（約二分）

夜の「かみくま」と「駅のホームに立つ桐子（倍賞千恵子）。『霧の旗』。〈殺人犯の汚名のまま獄死した兄。妹の悲しみは激しい怒りに変わった。兄の無実を信じる桐子は依頼を退けた弁護士に復讐を誓った〉

愛人を助けてくれと頼む弁護士に、桐子は「不公平ですわ。無実を証明していただくのはけっこうです。でも、兄はもう死んでます。けれど、径子さんは生きてらっしゃるでしょ」とナ

イフのような言葉を突きつけて、風の中

を歩き去る。山口百恵主演でもリメイクされ、堀北真希主演のテレビドラマは記憶に新しい。（約二分）

——海辺で、風にくずれる『砂の器』。〈宿命とは悲しさなのか強さなのか。日本列島を貫く親子の旅を通じて、人間の宿命を流麗なコンチェルトにのせて描いた感動の名作〉亀高駅ホームでの、別れを宿命づけられた父子の、感動の抱擁シーン。美しい日本の自然の中で、加藤嘉の演技は圧巻である。『キネマ旬報』二位。（約三分）

清張映画の第一作（一九五七）『顔』、荒れる日本海に臨む断崖の場面がミステリーの定番となった『ゼロの焦点』と『無宿人別張』もなつかしい映像を楽しめるが、あいだに、タイトルとキャッチコピーだけのものが十二本はさまれている。——上映時間は合計でわずか十八分だが、きつと本編も観たくなる。そのときは、地階のミュージアムショップでDVD（販売）をどうぞ。

当館では特別に、『疑惑』のメイキング映像を上映。球磨子（桃井かおり）の演技を観て、監督と話す清張。貴重な清張のインタビューも聞くことができます。最後は、ドラマの『天城越え』（一九七八、NHK）。清張自身がお遍路姿で出演し、少年（鶴見辰吾）に「祈ってあげたよ」と声をかける。そして、チリン、チリン、チリンと持鈴を鳴らしながら、去っていく——FIN（学芸担当主任 中川里志）

作品の舞台を訪ねて

「眩人」——玄昉という人 ③ 奈良の寺々

奈良の海龍王寺は、玄昉が内道場（※1）として仏教の教えを説いた場所という。彼が唐で得た知識は（日本の仏教に大きな影響を与え）、〈仏教で国を治める「鎮護国家」の礎を築いた〉とともに、〈「写経事業」の発展にも功績を残したとされる（※2）〉。

海竜王寺へ行く。一名「隅寺」という。（中略）「隅寺」は、皇后宮の東隅に僧玄昉が造らせた内道場（宮中の寺）の址か。（中略）玄昉が宮子皇太夫人をひどく看護するや、彼女のさしもの重患たりし幽憂はたちまち快癒した。（中略）彼女と玄昉の間は、大宰府に貶された藤原広嗣に反乱の口実をつくらせる。（文藝春秋）



海龍王寺門前

『松本清張全集65「清張日記」昭和五六年五月七日記事より』

わたしは以前に興福寺南円堂にある玄昉の木彫像を見たことがある。瘦せて背の低そうな身体にしてある。その顔は頬が落ち、咽喉首は筋が梢のように浮き上がり、合掌している指は細い。眼尻が下がって、口もとに微笑が浮びかけているが、下がった眉の間にはかすかに愁いの表情がみえる。（中略）どちらかという



興福寺南円堂

と貧相なこの小男が長安に足かけ二十年間も踏みどまり、「経論五千余巻及び諸仏像」を將來したエネルギーをどこに持ち合せていたかと、この玄昉に対して不思議な気がする。（文藝春秋「松本清張全集51「眩人」より）

清張が抱いた不思議な気持ち裏付けるかのように、玄昉像として伝わるこの像は鎌倉時代の作とされ、もとは別僧の像であった可能性が高いと考えられている（※3）。

二部構成の「眩人」、一部は唐で暮らす玄昉の傍らに視点を据えて書き、二部は玄昉の帰国に従い渡来した波斯（ペルシア）人（李密賢）（※4）の回想記として、彼の眼をとおして書く。すなわち帰国後の栄達と凋落は間接的に語られ、玄昉本人が何を思い、どう考えていたかはわからない。が、彼の果した役割を清張は追求する。次号へつづく。



伝玄昉像（出典:Wikipedia「興福寺の仏像」）

（※1）宮中の仏堂であり皇帝家のために祈願を修するとともに、天皇皇后をはじめとする全ての宮人が名僧知識として講説を聴くところ。海龍王寺公式ホームページより。
（※2）（一）内は、海龍王寺公式ホームページより。
（※3）「もつと知りたい興福寺の仏たち」金子啓明著（二〇〇九年、東京美術）
（※4）『純日本紀』に記載のある人名。作中では別名で登場するが、物語の進行とともに清張の意図でこの名へ改名する。（加地尚子）

研究誌『松本清張研究』

第十六号発刊



特集

清張と新聞

特別対談

戦後文学に現われた松本清張という現象

五木寛之 山田有策

論文

松本清張と新聞小説

十重田裕一

清張小説のなかの新聞記者と新聞社

綾目広治

新聞小説第一作 — 松本清張「野盗伝奇」論

山本幸正

「砂の器」考

—— 社会派推理小説のレトリック、もしくは新聞小説その読みの作法について —— 中丸宣明

少しずつ、グローバルな霧と闇へ／から — 『霧の会議』という企て 高橋敏夫

松本清張『火の路』とベルシア文化の飛鳥東漸 久米雅雄

松本清張の社会派推理小説と自殺・失踪 — 『点と線』『ゼロの焦点』『波の塔』を手掛かりに —— 南富鎮

エッセイ

松本清張作品と私 山口恵以子

松本清張とヴェレミーナの私 千ハコヴァーヴラスト

講演

松本清張の昭和史 半藤一利

投稿

『両像・森鷗外』私考 — 清張の採集法と鷗外史伝の叙法の接点を中心に —— 多田康廣

記念館研究ノート

松本清張と水村美苗の「嵐が丘」体験

—— 日本近代文学の豊かさとして —— 柳原暁子

記念館だより

編集後記

友の会 活動報告

● 清張サロン

清張サロンは毎回、清張作品や清張に関する話題をテーマに、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流を目的に年8回開催しています。昨年11月から2月にかけては、下記のとおり3回開催しました。第3回は、友の会と記念館の共催とし、会員のほか、一般市民にも参加を呼びかけて行いました。いずれも参加者の皆様により深く清張作品に触れて楽しんでいただくことができ、充実したサロンとなりました。

第3回 11月29日(土) 14:00~16:00 参加者61名

- 会場 記念館 企画展示室
- 特別講演会 テーマ 「松本清張の古代史学説小説 —『火の路』『眩人』—」
- 講師 綾目 広治氏(ノートルダム清心女子大学教授)

第4回 1月29日(木) 14:00~16:00 参加者26名

- 会場 記念館 会議室
- テーマ 特別企画展 「『眩人』松本清張と東西文化交流 平山郁夫原画+ガンダーラ仏」
- 講師 中川 里志氏(記念館・学芸担当主任)

第5回 2月26日(木) 14:00~16:00 参加者33名

- 会場 記念館 地階ホール
- テーマ 「象徴の設計」の歴史的背景
- 講師 植山 渚氏(元九州国際大学附属高校教諭)

● 生誕祭

12月12日(金) 参加者51名
記念館 企画展示室

松本清張の105回目の誕生日を友の会会員でお祝いする「生誕祭」が開催されました。最初にケーキへのローソク点灯などがあり、誕生会らしい和やかな雰囲気の中で始まりました。

今年は、地元北九州市の劇団青春座・井生定巳代表をお招きし、清張の思い出話などを語っていただいた後、劇団員の井上智之氏に「無宿人別帳 左の腕」を朗読していただきました。臨場感と迫力が伝わる朗読により、会場内に作品の世界が広がりました。



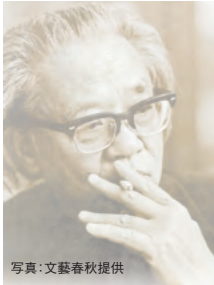
● 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集 ●

松本清張記念館友の会は8月1日~翌年7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、『友の会だより』の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

友の会入会のお申し込みは、松本清張記念館友の会事務局まで
TEL. 093-582-2761

平成27年度
中学生・高校生

読書感想文 コンクール



写真・文藝春秋提供

清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から一作品

『球形の荒野』（『球形の荒野』上・下 文春文庫）

『遠い接近』（『遠い接近』文春文庫）

『共犯者』（『共犯者』光文社文庫、『共犯者』新潮文庫）

『西郷札』（『西郷札』光文社文庫、『西郷札』新潮文庫、
『宮部みゆき責任編集 松本清張傑作短篇コレクション』下 文春文庫）

■応募方法

- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募締切 平成27年10月31日(土) ※当日消印有効

■応募先 松本清張記念館 感想文コンクール係
※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

■選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、12月下旬頃、本人と学校に通知し表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

- 最優秀賞(1名)
《モンブラン》万年筆「マイスターシュテックNo.149」
 - 優秀賞(中学の部…1名)(高校の部…1名) 文具など(未定)
 - 佳作(中学の部…3名)(高校の部…3名) 図書カード 他
- ※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限定させていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。過去の受賞者からの応募作品が賞に該当する場合は「特別賞」として「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン



イラスト・山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093 (582) 2761
FAX 093 (562) 2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州市都市高速、大手町ランプより5分

平成26年度・ドラマ化された清張作品

「時間の習俗」、「霧の旗」は北九州市内でロケが行われました。「死の発送」は初映像化、「草」は54年ぶりのドラマ化でした。

27年度も、清張原作ドラマの放送が予定されています。新聞テレビ欄等のチェックをお忘れなく。



〈放送日〉	〈原作名〉	〈主な出演者〉	〈制作局〉
26.4.10(木)	「時間の習俗」	内野 聖陽	フジテレビ
26.5.30(金)	「死の発送」	向井 理	フジテレビ
26.7.2(水)	「強き蟻」	米倉 涼子	テレビ東京
26.12.6(土)	「坂道の家」	尾野 真千子	テレビ朝日
26.12.7(日)	「霧の旗」	堀北 真希	テレビ朝日
27.3.25(水)	「草(黒い画集)」	村上 弘明	テレビ東京

出前講演に行ってきました!

市民アカデミー「もじ・元気塾」10周年記念講演

開催日 2月19日(木)

場所 市立門司生涯学習センター

演題 「松本清張が描いた北九州
『時間の習俗』—ミステリーの旅—」

参加者 一般の方 約50名



講師を当館の中川学芸担当主任が務めました。会場は「時間の習俗」の舞台となり、清張の文学碑が建つ和布刈(めかり)神社の程近く。奇しくも当日未明には、作品にも描かれた年一度の和布刈神事が行われていました。関門海峡の風吹きささぶ門司港で清張を熱く語りました。

- 編集後記● 13回目となる読書感想文コンクール。応募総数は史上最多となりました。届いた原稿用紙から立ち昇ってきたのは、描かれた時代と異なる〈今〉を生きる中高生が、作品と精一杯向き合った姿でした。読書を機に家族や友人との会話も弾んでいるようです。瑞々しさに圧倒されつつ、世代を超えたコミュニケーションの糸口となりうる作品の力を改めて感じました。
季節は巡り、周辺の桜が見ごろを迎えています。お花見がてら、記念館へも是非お立ち寄りください。(N.K)

